

課題名：**ELSIを踏まえた自動運転技術の現場に即した社会実装手法の構築**

代表者：**中野 公彦（東京大学 生産技術研究所 教授）**

参画機関：東京大学 生産技術研究所／未来ビジョン研究センター／大学院総合文化研究科，
明治大学 自動運転社会総合研究所，筑波大学 システム情報系 他，東北大学，群馬大学，
東京理科大学，京都大学 など



課題概要

自動運転技術の開発・実証研究と連動しながら、リスクとベネフィットの適切な理解に基づく新興技術のトランジション・モデルを提案する。

大学キャンパスと最寄り駅の間を自動運転バスを走行させる実証実験を実施するとともに、全国各地で実施されている自動運転実証実験の情報を収集し、自動運転技術を市民に適切に理解してもらうための、科学技術コミュニケーションを実践する。

事故が起きた時の客観的な証拠に基づく、紛争解決を目指した法と補償制度の検討を行い、その方法論を確立する。

手動運転の自動車を社会に受け入れてきた過去の事例調査を行い、倫理の面からの検討も行いながら、自動運転という新しい技術を社会に受け入れてもらう方法の提案と評価を行う。

ELSIの国際動向も踏まえながら、安全・安心、信頼と責任、公平性、プライバシーなどの倫理的課題に着目し、日本の地域社会の価値観に根差しながら、開発者と市民・ステークホルダーとの対話を実践し、環境設計も含む社会インフラとしてのこれからの自動運転技術の実装の在り方を検討する。



倫理の議論

自動運転は安全か？ 自動運転にプライバシーはあるか？

自動運転は必要か？ 自動運転はどこで行うべきか？

そもそも移動は必要か？

保険・法制度の検討

事故の責任は誰にある？

被害者の救済はどのようにするのか？

自動運転車の事故調査はどうする？

自動運転車走行のルールはあるの？

実証実験実施



自動運転技術を適切に理解してもらう
科学技術コミュニケーションの実施

市民フォーラム



関係者との協議

自動運転の体験

ELSI課題の解決を通じて自動運転が社会に受け入れられる方法を考えます

- 人が運転するクルマを社会に導入した歴史の調査
- 自動運転の社会受容に向けた倫理的、心理学、メディア情報学的検討
- 広報ツールと受容性評価方法の提案